

各 位

平成 24 年 6 月 吉 日

津軽ひろさき応援隊
隊長 戸田 則男



青函連絡船

「青函ワールドジオラマ」の保存と活用へ

東京お台場「船の科学館」で公開されておりました青函連絡船「羊蹄丸」は今年 3 月に愛媛県新居浜へと回航されました。そして 6 月 10 日までの一般公開が終了後 7 月からは「羊蹄丸」はシップリサイクル実証研究作業に入る予定です。

その「羊蹄丸」の車両甲板約 700 m²のスペースには昭和 30 年代の青森の駅舎、りんご市場、魚菜市场、連絡船待合室等をそれぞれのシーンに相応しい人物と伴に再現した素晴らしい実物大の体感空間が展開されています。これらの展示物は、製作にあたり 2 年の歳月をかけ青森県内を取材・調査し緻密な時代考証に基づき創られた大変貴重なものです。「これらを船の解体と共に無くしていいのか？何とか残したい！」と当方隊員でもある若山多香子さんが急遽「青函ワールドジオラマ残し隊」を結成し、署名活動を始めました。そして集まった 2,080 名の署名を青森市長に届けたところ、市長自ら新居浜まで出向き、青森市で「青函ワールド」の展示物を引き受け 7 月 31 日より「八甲田丸」に展示することが決まりました。

また、「羊蹄丸」の解体により現存する青函連絡船は函館の「摩周丸」と青森の「八甲田丸」だけになってしまいますが、手を加えられず残るのは「八甲田丸」だけで、今後文化遺産や近代化遺産として大変貴重なものとなります。そしてこれらを青森県の貴重な観光資源として有効活用するために、皆様のご理解とサポートを必要としております。

そこで「津軽ひろさき応援隊」はこれらの貴重な資源の価値について学び、理解を深めたいと考え、「八甲田丸」や「ジオラマ製作」に関わった専門家の方々をお招きし、勉強会(フォーラム)を開催することと致しました。

ご多用のこととは思いますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。



昭和 30 年代の青森りんご市場

